伊賀米コシヒカリ栽培ごよみ

月	10〜12	3	4	5	6	7	8	9
日		15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25
目　標	土の若返りと地力増強	全量種子更新		健全な苗作り／良好な活着	有効茎数の確保	無効分げつ抑制／実りの良い穂を作る	実りを良くする	全量1等米確保

作業ステージ

土　づ　く　り

良質米は土づくりから

◎大山田コンポ等の有機物・良質堆肥を積極的に施用しましょう。

◎稲わらを全量投入し、年内にすき込みましょう。

◎天候に左右されにくい、おいしい米づくりのため土壌改良材は毎年投入しましょう。

◎継続的な土づくりにより、肥沃な土壌を作ることで、元肥資材及び施用量を調整することができます。

育苗作業

- 育苗準備
- 種子消毒
- 浸種
- 催芽
- 播種
- 育苗

田植作業

- 元肥施用
- 代かき
- 田植

除草剤散布

葉いもち病予防

中干し

穂いもち・紋枯病防除

穂肥第一回施用

畦畔一斉草刈り（カメムシ対策）

穂肥第二回施用

穂揃いの確認

仕上げ防除

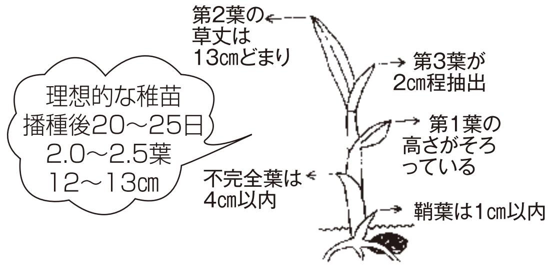
落水

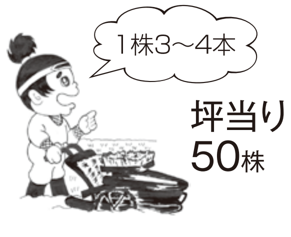
収穫作業

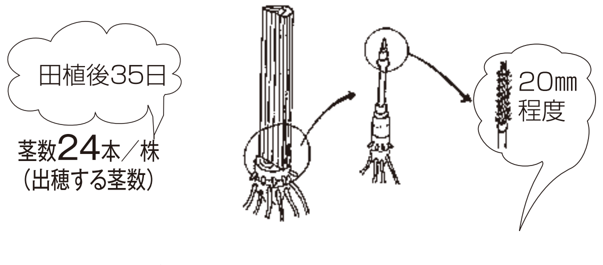
- 収穫
- 乾燥
- 調製

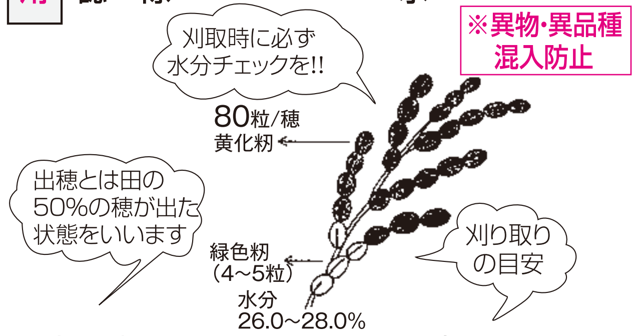
※異物・異品種混入防止

生育ステージ


理想的な稚苗
播種後20〜25日
2.0〜2.5葉
12〜13㎝
第2葉の草丈は13㎝どまり
第3葉が2㎝程抽出
第1葉の高さがそろっている
不完全葉は4㎝以内
鞘葉は1㎝以内

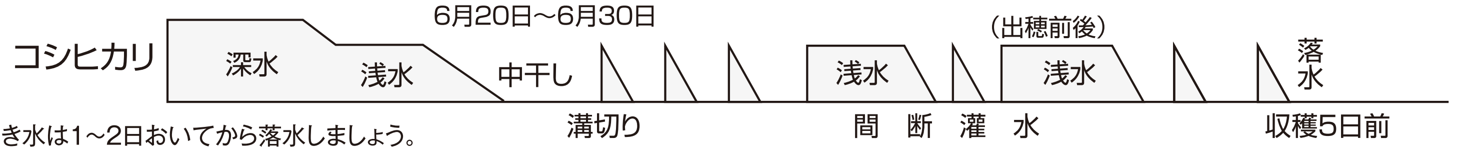

1株3〜4本
坪当り50株


田植後35日
茎数24本／株
（出穂する茎数）
20㎜程度


出穂とは田の50%の穂が出た状態をいいます
刈取時に必ず水分チェックを!!
80粒/穂
黄化籾
緑色籾（4〜5粒）
水分26.0〜28.0%
刈り取りの目安

コシヒカリ	播　種	田　植	有効茎数確保	出穂15日前	出　穂	刈り取り
	4月20日	5月10日〜15日	6月20日	7月17日	8月1日	9月5日（出穂後35日程度）

水管理


6月20日〜6月30日
コシヒカリ
深水
浅水
中干し
溝切り
浅水
間断灌水
（出穂前後）
浅水
落水
収穫5日前

代かき水は1〜2日おいてから落水しましょう。

施肥設計標準

（施用量10アール当り）

元　肥

体系	肥料名	成分	全層	側条
元 肥	伊賀コシヒカリ化成	10−18−16	25kg	20kg
元肥一発	セラコートR822	18−12−12	−	35kg

※堆肥施用田は元肥の施用量を調整して下さい。

調整肥

（出穂55日〜45日前まで）

肥料名	施用量
珪酸加里	30〜40kg

※元肥時にも施用できます。

中干しのポイント

①根に空気を与え、根ぐされ防止

②根元を強くし倒伏防止

③土壌条件にあわせ中干しをくり返し行う（必ずしも強い中干しが有効ではない）

穂　肥

	肥料名	施用量	施用時期
第　1　回	伊賀米有機穂肥	15kg	出穂前　15日
第　2　回		20kg	出穂前　8日
穂肥1発	セラコートRNK206	20kg	出穂前　10〜15日

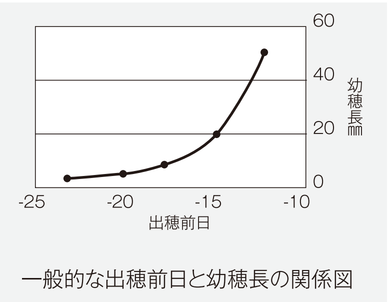
※元肥一発の場合は、原則として穂肥を施用しないが、天候などにより、必要な場合があります。

◎生育状況により施用時期、施用量を加減する。

◎実肥は食味を著しく低下させるので絶対に施用しない。

病害虫防除のポイント

（病害虫名）	（使用農薬名）
育苗器・育苗箱消毒	イチバン
シンガレセンチュウ 籾枯細菌病 ばか苗病	（ごま葉枯病含む） スミチオン乳剤 テクリードCF 薬剤防除 もしくは （水温60℃10分間） エコホープDJ タフブロック ＋ 温湯消毒
ムレ苗病 苗立枯病	タチガレエースM粉・液剤
健苗育成・ムレ苗防止	フジワン粒剤
イネミズゾウムシ（予防箱施用） 葉いもち（予防）	スピノ箱粒剤 ルーチンアド ツインターボ箱粒剤08
イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	トレボン粒剤（発生時） シクロパック粒剤（予防）
葉いもち・紋枯病・白葉枯病 葉いもち・白葉枯病	オリブライト粒剤 オリゼメート粒剤（予防）
葉いもち（発生時）	ブラシン粉剤DL
穂いもち予防 穂いもち・紋枯病	コラトップ粒剤 フジワンモンカット粒剤
カメムシ等（予防）	スタークル粒剤
穂いもち・カメムシ等（仕上げ防除）	ダブルカットスタークル粉剤DL ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL
カメムシ等	トレボン粉剤DL（多発時） スタークル粒剤



一般的な出穂前日と幼穂長の関係図

※〰については、どちらかの農薬を使用し、散布する前には、ラベルの表示事項を確認して適正に使用しましょう。